



心臓がドキドキ音がするのはなぜ

心臓に弁があるから

心臓がドキドキ音がするのは、心臓の中についている弁が、閉じるときの音です。心臓は、血液を体のすみずみにまでとどけるための、ポンプの役目をしています。血液は、血管（動脈）を通り、体じゅうに酸素や栄養をとどけます。そして、二酸化炭素など、体のいらなくなったものを運んで、また、血管（静脈）を通り、心臓にもどってきます。ですから、血液を送り出す心臓の中や、血液が通る血管は、一方通行になっています。そのため、血液が、逆に流れないようにするための、ふたのような役目をする弁が、心臓には二つついているのです。

心臓の弁のはたらきは

心臓は、二つの弁（ふた）を、閉じたり開いたりしながら、血液を体へ送り出したり、もどってきた血液を、取りこんだりして、血液が、逆に流れないようにしています。そして、心臓が、血液を送り出すときには、血液がもどってこないように、この弁を、大急ぎで閉じます。パシッという音がするほど、強く弁を閉じているため、その音が、わたしたちには、ドキッと、聞こえているわけです。つまり、心臓がドキドキする音は、心臓の中についている弁が、閉じるときの音というわけです。（監修・保志 宏）

心臓の動き

